

【講義メモ】担当:平野正喜(ひらのまさき)

この講座ではプロジェクトに講義メモを書きながら進めます。この文字サイズの読める席にお座りください。

18:15~20:45(途中休憩有)。受講者数は13人です。

この講義メモは講義終了と同時に下記のサイトにPDFで掲載し、ダウンロード可能にします。ご利用ください。次回予告も掲載します。質問やコメントが送信可能です。

<https://tkuip.rundog.org>

前回の1問: 電子マーケットプレースが該当するのは?

ア BtoB イ BtoC ウ CtoC エ BtoE 正解はア (p.72)

第3章 システム戦略

p.82 3-1-1 情報システム戦略

・EA=エンタープライズ(企業)アーキテクチャ(構築様式):企業全体をITの導入により最適化するための考え方

・SFA=セールスフォース(営業力)オートメーション(自動化):営業支援システムで、営業力の個人依存を避けて組織の営業力にするための仕組み。営業情報の共有など。

※ CRM(顧客関係管理)と連動し、特にコンタクト(顧客接觸)管理と親和性が高い

p.83 3-1-2 ITによる業務改善

・E-R(エンティティ(実体)リレーションシップ(関連))図:p.242 参照

・DFD=データフロー(情報の流れ)ダイヤグラム(図):プロセスを円で、その間に流れる情報を矢印で示す動的図。プロセスが用いるデータの格納 & 読込先をデータストアといい二重線で示す(例:ファイル、データベース、伝票)。通常、システムごとに描くので、情報の源泉と行先を□で示す。

・BPR=ビジネス(業務)プロセス・リエンジニアリング(再構築):業務プロセスの抜本的な改善。例:M&A実施後の業務プロセスの改善。

・BPM=ビジネス(業務)プロセス・マネジメント:業務プロセスの継続的な改善。

※BCPとBCMの関係に似ている(p.12)

・RPA=ロボティック(定型的な)プロセス・オートメーション(自動化):定型業務をロボット的なソフトウェアで代行させることで、業務プロセスを改善すること

※ハードウェアや、ロボットそのものの利用ではない

p.85 3-2-2 ITの有効活用

・SNS=ソーシャル(社内的)ネットワーキング(連携・交流)サービス

・グループウェア:日常業務向けの機能をまとめた支援システム。メール、チームメッセージ(伝言メモ)、BBS(電子掲示板)、チームスケジュール、施設予約、ワークフロー(伝票・回覧)などの機能を持つ

・BYOD=bring your own device(持参して業務に用いる)デバイス(装置、通信機器):主に、個人所有のPCやスマートフォンを業務利用すること。コストや利便性が改善するが、セキュリティが悪化しやすい。

p.86 3-3-1 ソリューションとは

・【補足】ソリューション:元の意味は「溶解」で「問題解決」の意味で用いる。これをサービスとして提供する業者がソリューション・プロバイダ

・SI=システム・インテグレータ:システムの構築から運用までの全体を担当するソリューションプロバイダ。※【参考】H23までは登録制だった ※Slrともいう

- ・【補足】ハウジングサービス：システムの構築はユーザ側で行い、ハウジング業者に預けて運用を委託すること。例：企業の外部向けWebサーバなど
- ・【補足】ホスティングサービス：別名はレンタルサーバで、ホスティング業者が構築したサーバーの一部をユーザが借りて、サイトを構築すること。容量と通信量などにより課金される。
- ・【補足】クラウドコンピューティングのポイント：インターネット上の資源（他社によるものを含むサービス群）を組み合わせて利用する形態。個人向けの例：Yahoo
- ・【補足】オンプレミス：従来のシステム構築・運用のように、全てを自社で行うことで、高コストだがセキュリティを保ちやすく、外部要因のトラブルを防止しやすい。
- ・ASP=アプリケーション（プログラム）サービス・プロバイダ（提供業者）：プログラムやその機能をインターネット経由で利用できるサービス提供形態。利用者におけるインストールや媒体管理などのコストを省ける。機能の制限やネットワークの負荷などがデメリット。
- ・SaaS=ソフトウェア・アズ・ア・サービス：廉価版ASP。ASPはサービスの品質やセキュリティを維持するために1サーバ1ユーザ（シングルテナント）だが、SaaSは1サーバ複数ユーザ（マルチテナント）。ASPより柔軟で利用者数と利用月数による課金などが可能。
- ・PaaS=プラットホーム（システムの稼働環境）アズ・ア・サービス：主にサーバ用OS、大型データベースシステムをサービスとして提供する形態。
- ・IaaS=インフラストラクチャ（基盤）アズ・ア・サービス：主に仮想化サーバを含むネットワーク環境をサービスとして提供する形態。サーバOSの種類が自由。

※仮想化サーバ：大型サーバにさらにサーバOSをインストールできる仕掛け（仮想化システム）をインストールし、サーバOSごとに見かけ上、独立動作するもの（p.198）

・DaaS=デスクトップ・アズ・ア・サービス：ユーザPC用のOSやアプリケーションをサーバで実行し、画面（デスクトップ）のみをネットワーク経由で提供するサービス。ユーザによる不適切なインストール、設定変更、データの挿入や持ち出しを禁止できるため、セキュリティが向上する。これに特化したユーザ機器をシンクライアントという。

・SOA=サービス・オリエンテッド（指向）アーキテクチャ（構築様式）：旧来の業務プロセスを重視するPOA（=プロセス指向）から、（クラウドコンピューティングのような）サービスの組み合わせを重視する開発手法のこと。

p.89 3-4-1 デジタルリテラシー

・デジタル（情報）リテラシー（利用能力）：主にPCやインターネットを業務に活かせること

p.89 3-4-2 情報システムの普及・啓発

・テンプレート（ひな形）：データの入力や利用に用いる仕掛けをあらかじめ用意したもの。例：汎用業務用のExcelのシートや、Wordの書式。作成効率の向上と標準化が目的。

・デジタルディバイド：ITリテラシーにおける格差。ITの利用能力や利用機会の有無によって、立場の有利不利が生じてしまうこと

・ゲーミフィケーション：システムにゲームで用いられる仕組みを持ち込むことで、利用満足度の向上や活性化を実現すること。例：ポイント制、ログインボーナス。

・レガシーシステム：伝統的なシステムのことで、技術的に古くなつて効率や利用率などが落ちているシステムのこと。DXにより廃棄・刷新される対象。

p.91 3-5-1 システム化計画

・【補足】費用対効果：コストパフォーマンス（コスパ）のこと。効果÷費用

・【補足】脆弱性：セキュリティホール（セキュリティ上の弱点=攻撃されやすさ）のこと。

p.92 3-5-2 要件定義

・【補足】要件定義のポイント：業務上の何をIT化するか、IT化しないか、範囲と機能を明確化

・【補足】機能要件：システムに持たせる機能となる要件。例：伝票処理、受注管理

・【補足】非機能要件：機能以外の要件。例：信頼性、動作速度、セキュリティ

p.93 3-7-1 調達の流れ

・RFI=リクエスト(依頼)フォー・インフォメーション(情報)：情報提供依頼。ユーザが複数のベンダ(システム開発事業者)に行う。システム開発に必要な技術情報や、ベンダの持つ能力についての問合せ。

・RFP=リクエスト(依頼)フォー・プロポーザル(提案)：提案依頼書。主に、ユーザがRFIに返答した複数のベンダに対して行う。ベンダが提案書を作成している間に、ユーザは選定基準を作成する(公平性のため)。

・見積書：RFPによりユーザが受け取った提案書を評価し、最適と思われるベンダに作成を依頼するコスト表。

※RFPで、提案書に概算見積もりを求める場合もある

※RFPからの流れは p.98「これだけは押さえたいポイント」を参照

第4章 開発技術

p.100 4-1-1 システム開発のプロセス

・【補足】品質特性のポイント：「使用性」は「使いやすさ(ユーザビリティ)」。「保守性」は(ソフトウェアの場合)「改善(修正)しやすさ」であり「保つ」「守る」ではないので注意。「移植性」は「他のOSや実行環境でも実行できるか(すぐに実行できるように修正できるか)」

・【補足】システム開発の流れ：主に「要件定義」までがユーザ側で、それ以降の「開発」はベンダ側、最後の「導入」は共同作業になる。

・【外部設計】ユーザに見える/ユーザが直接触れる/業務に関わることがらの設計。家でいうエクステリアや壁の外側にあたる。ユーザの協力や承認が必要。

・【内部設計】要件をどう実現するかの設計。家でいう壁の内側にあたる。ベンダのみで行う。

今日の1問：提案依頼書は？ ア SOA イ ASP ウ RFI エ RFP

次回(10/15)予告：p.101「4-1-2 テストの種類」※10/13(祝)はお休みです